

藤兵衛稲荷

むかし、むかし、羅漢山らかんざんに藤兵衛とうべえというキツネがいたんだど。

ある日のことだったど。その年は、ひどい日照りひでが続いてな、田植えは終わったんだけどな、みんな川から水を運んで田んぼにかけたり、鹿島かしまのお宮に行つて雨ごいのお祈りをしたんだけどな、ちつとも効きめがなかったんだど。

このままでいったらな、お百姓ひやくしやうはもちろん武士や商人たちも食べる米がなくなつちやうわけだんべ。

そんなじゃから、町の者全部ものがな、それぞれに川の水を桶おけに汲くんで、田んぼに運んだんだど。

そのうちに、みんなくたくたに疲れつかちまつてな、働く元氣もなくなつてな、川の土手にばたばたと倒たおれて眠ねちまつたんだど。